

青森県平内町

藤沢地区

いんで ねえが ふんちや



明日を考えるための八ヶ月間の軌跡



なんど どしてれ?

はじめに・ご挨拶



藤沢町内会会長
伊瀬谷 登

平成26年度、青森県が進める人口減少・高齢化が進む集落等において活力ある地域創出を目指した「集落経営再生・活性化事業」に藤沢町内会が指定を受けました。我々に少子高齢化の歯止め策はありませんが、幸いにも藤沢は自然資源に恵まれ、先達者が培ってきた歴史や伝統、生きる知恵が残されています。

この事業で、やれることから・楽しみながら・無理をせず・やれる人で・自身のいきがいつくりや住みやすい環境づくりに取り組み、「藤沢に住んで良かった」と感じられるように、生き活きと光り輝ける仕組みをつくり、健康長寿村を目指したいと思います。協働・共助・互助・共生の活力ある地域として発信しつつ、U・I・Jターンが可能な環境をつくり、たくさんの方々をお迎えしたいと思います。



藤沢子供会育成会会長
逢坂 諭

藤沢子供会及び藤沢子供会育成会では町内会などと連携し、地区内だけではなく幅広い地域の子供達の友好と親睦を図り、社会貢献・奉仕の勉強の場として活動しています。春の清掃奉仕に始まり、夏には自分達で扇ねぶたを作成、お囃子を練習してから町内運行まで「ひらない夏祭り」に参加して、関係者より感謝され好評を博しています。秋・冬には色々なイベントを企画し活動しています。

昨今の晩婚化・少子化などの影響で会員数も減少し、運営に苦勞も絶えませんが、子供会活動を皆様にご理解頂くため、各行事・団体に積極的に参加しPRしながら、「とにかく皆でまともろう」と声掛け合って活動してゆきたいと思ひます。子ども達が藤沢に育った事を誇りに思い、将来「子供会活動」を思い出して自分の子ども達に語りかけられる様になることを目標にこれからも活動してゆきますので皆様ご協力お願いします。

「青森県集落経営・再生活活性化事業」の紹介

～今回の一連の取り組みで活用しました!～

県では「青森県基本計画 未来への挑戦」に基づき3つの戦略プロジェクトを進めており、その最初に掲げる「人口減少克服プロジェクト」事業の1つとして、「集落経営再生・活性化事業」を進めています。

この事業では、平成26～27年度の2年間、公募により決定した6つのモデル地区において、市町村及び大学等と連携しながら、集落の実態調査を行い、その結果に基づき住民の話し合い等により地域の目標・計画を定め、自ら実施する取組みを支援していくこととしています。(青森県庁ホームページより引用)

この小冊子は、平成26年8月から、藤沢地区が青森県、平内町役場、弘前大学とともに、藤沢の現在をくわしく調べ、将来がどうなったらよいか考え、行動してゆくことを目指して取り組んできた活動の記録です。

現在藤沢に住んでいる方はこの冊子をパラパラめくりつつ、これまでの取り組みを振り返ったり、藤沢の未来に思いを馳せたりしてみてください。今は藤沢から離れて暮らしている方は、この冊子を眺めながら、故郷の人々や風景を思い出していただければ幸いです。

こんなことをやってきました

1. 藤沢地区の暮らしや環境の現状、いいところ、抱えている課題について調査をしました。

- 藤沢地区のいいところ・課題のヒアリング調査(8月)
- まち歩き調査(自然、景色、空き家、農地の状況など)(10月)
- 藤沢地区の暮らしや環境の現状についてヒアリング調査(10月:町内会役員、11月:消防団・子供会メンバー)
→藤沢のいいところは**4ページ**、課題は**6ページ**へ
- 地区内全戸を対象にアンケート調査(1月)
→アンケート調査の結果は**8ページ**へ

2. 先進的な取り組みをしている青森と秋田の山間部の集落に視察に行ってきました。

- 秋田県大館市山田集落会 五城目町清流の会(12月)
- 青森県新郷村川代地区(3月)
→視察旅行の詳細は**12ページ**へ

3. 藤沢地区を元気にするためにできること、やりたいことについてアイデアを出し話し合いました。

- 藤沢の子ども達による「将来の藤沢」イラスト作成(2月)
→子ども達のイラストは**10ページ**へ
- 今後藤沢でできる・やりたいことのアイディア出し(1,2月)
- 来年度以降の活動スケジュールについて話し合い(3月)
→今後藤沢で「できる・やりたい」と意見の出た活動は**14ページ**へ
- 藤沢地区の将来イメージについて話し合い(2月)
→当面のあいだ、以下のような集落を目指して活動してゆこう、ということになりました



藤沢が目指すのはこんな集落!

- 住民がいつまでも若々しく生き生きと光り輝ける、しごと・ゆとりを持ち、健康である集落
- 皆で和気あいあいと楽しく、地域のつながりが絶えない集落
- 地区の外のにも魅力的で、新しい人やアイデアを受け入れる開かれた集落

えがべ!!ふんちゃ

藤沢のいいところ

藤沢の「いいところ」はなんでしょう？ここでは、ヒアリング調査やまち歩きを通じて見えてきた、藤沢の「いいところ」をまとめました。今後は、こうした「いいところ」を守り、上手く活用しながら、地区の課題を解決してゆくことを目指していきます。

●子どもが育つ環境として

- 子供会の活動が活発で、親どうし子どもどうしの交流を持てることがありがたい
- 海も山も近い
- 学校も歩いていける

●日常生活について (買い物、交通など)

- 近所からのおすそわけがある
- 近くにスーパーがある
- 交通が便利である
- 近所付き合いがよい
- 大きな災害がない

●平内城跡

- 堀が残っている
- 城の裏手まで海だった

●獅子舞

- 民俗無形文化財に指定

●奥州街道

- 人形坂から平内中央病院の坂道
- アップダウンがとても魅力的

たばこ畑

国道4号

長橋

人形坂

藤沢

コミュニティセンター

八幡宮神社

藤沢八幡宮神社

裏手の丘からの眺め

- 藤沢を一望できる
- あづま屋を建てたい

藤沢コミュニティセンター

●住民同士の交流

- 常に助けあっており充実している
- みんな人間がいい
- 夏祭りのおかげで集落に新しく来ても溶け込みやすい
- 団結力がある

●自然の恵み

- 藤沢は山菜の宝庫
- きれいなため池がある

(豆知識) 藤沢および平内の「おべだふり」

参考文献『平内町史』各巻

1. 藤沢の地名の由来

神奈川県藤沢市には浄土教のひとつ時宗の総本山清浄光寺(遊行寺)があります。藤沢の名は、藤沢市に由来するといわれています。例えば藤沢の獅子舞は、時宗の踊り念仏が起源だそうです。



どへばいべな ふんちや

藤沢の課題

同じ場所に長く住んでいれば、その分だけ見えてくる課題や問題があります。どうにか出来ることもあります。一方では解決の難しいこともあります。ここでは藤沢地区に住んでいる方の声を頼りに、これから藤沢地区に住み続けていく上で課題となる事をまとめました。



若者が住んでいない

- 地元で職がないので、若者が残らない
- 青森市内に引っ越すケースもあり、中々帰ってこない
- 地区外で子どもを育て、親の面倒を見るために藤沢に帰ってくる頃には初老になっており、結果的に地元の高齢化率アップに貢献してしまう

獅子舞の後継者が少ない

- 横笛は教える人も奏者もなかなかいない
- 全てを把握している人はほとんどいない



子どもの数が少ない

- 世帯数は減っていないが子どもの数は減っている
- 家の外で遊ぶ子どもたちの姿が見えない

農業をやる人が少ない

- 農業は地域を作る土台
- 農業従事者の高齢化
- 耕作放棄地も増加している
- 後継者は収入の良い他の職業を選ぶ



異世代間の交流が少ない

- 子どもたちとお年寄りが触れ合える場所が欲しい
- 老人の方から昔の話を聞く機会を作ることが必要
- 行事や集まり等に別の顔ぶれも集まって欲しい
- 集まる機会が少なく、集まっても来る人決まっています、少ない



空き家が 多くなってきている

- 現在藤沢地区内には7件の空き家がある



こんなことも課題では？

- 団地やアパート、公園などが不足している
- 子ども達の遊ぶ場所がない
- 私（50代）が小さい頃は、まだ小学校もあり学年で10人以上の児童もいて、町内では子ども達の遊んでいる姿が常にあり、それだけで活気を感じた。現在はほとんど子ども達の声を聞く事もなくなり、お盆位の里帰りの時期だけになってしまった。まずは若い担い手がほとんど少ない事を危惧します。
- 老人が生きがいとして集まったり話をしたり少しでも働けるような場所の確保と世話をする人が必要

（豆知識）
藤沢および平内の「おべだふり」
参考文献『平内町史』各巻



2. 全国各地との交易

藤沢の中を人形坂など奥州街道が通っています。昔は港も近くにあったそうです。平内に伊勢、加賀、能登、仙台に由来する名字が多いのは、全国各地との交易や移住が盛んだった証です。

どなるんだべ

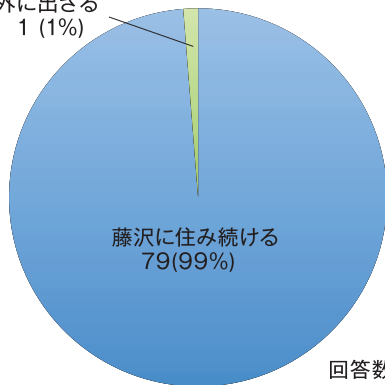
藤沢全戸を対象とするアンケートの結果発表！

近年藤沢では人口が少しずつ減っていますが、今後はどうなるでしょうか？ その一端を知るため、各戸の今後の居住の意向、子どもの現住所や今後住む予定の場所などについて調査しました。また、藤沢の課題のうち、多くの住民が重大だと考えている課題は何か？についても調べてみました。86戸に配布し84戸から回答がありました。

Q. あなたが今後住む場所はどこ？

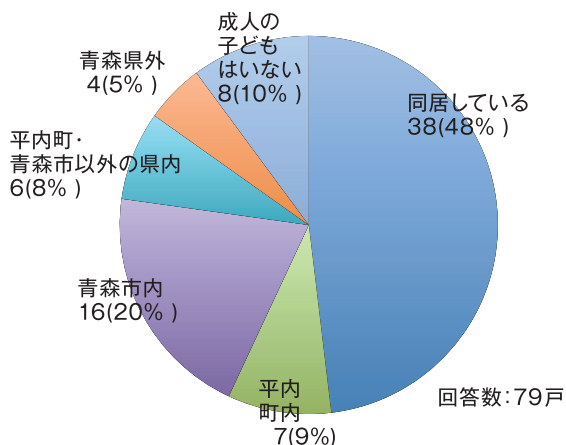
・ほぼ全ての家主（夫妻）が藤沢に住み続けたいと考えている

いずれ外に出ざる
をない 1 (1%)



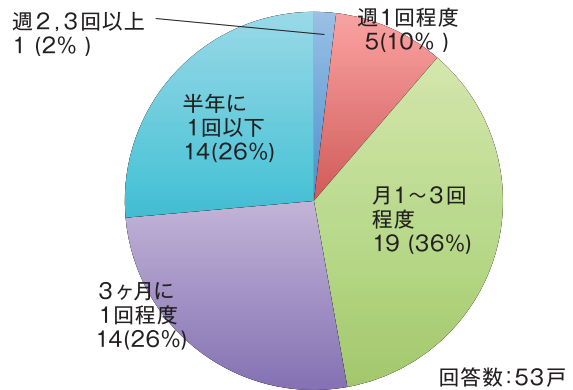
Q. 現在あなたの子ども（成人）が住む場所は？

※各戸の子どものうち、一番近くに住む子の住所を聞きました
・半分以上の家は、子どもが同居中か平内町内に住んでいます
・1/3は一番近くに住む子どもも平内町外であると分かります



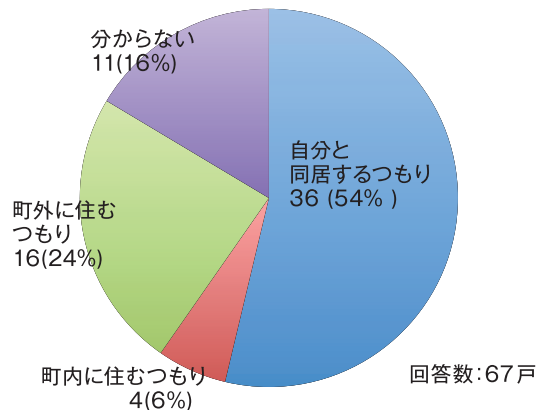
Q. 町外に住む子どもがあなたを訪れる頻度は？

・町外に子どもがいる半分の家に、月1回以上子どもが訪問
・約1/4の家では、お盆・お正月に帰ってくる程度



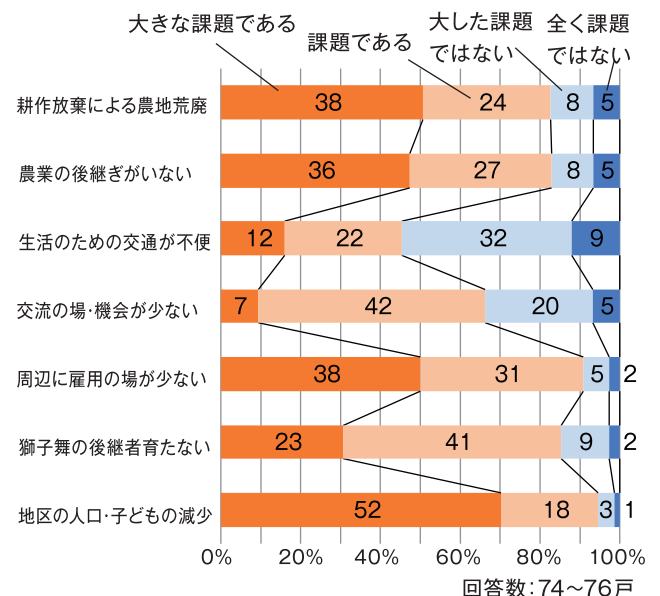
Q. あなたの子どもは将来どこに住む予定？

※複数子どもがいる場合は、一番近くの回答だけ数えました
・同居あるいは町内に住む予定の家が6割ありました
・町外に住む予定、分からないという家も4割ありました



Q. 藤沢地区にとって重大な課題は何？

・最も多くが課題と考えているのは「人口・子どもの減少」です
・それに続き「雇用の場が少ないこと」、「耕作放棄地による農地荒廃」や「農業の後継者不足」を大きな課題と考えています
・「獅子舞の後継者不足」は重大とまでは行きませんが、大半が課題だと認識しています
・「交流の場・機会」も7割近くの人が必要と感じています
・「交通不便」を課題と感じている人は半分以上いませんでした



(豆知識)
藤沢および平内の「おべだふり」
参考文献『平内町史』各巻

3. 江戸時代の生活

江戸時代の平内は農業や漁業だけでなく、馬を用いた運送業や、山で採れる豊富な薪や海水を用いた製塩業でも有名でした。農業だけに限らない、豊かな生活だったといえるでしょう。



こんだばいっきゃ!

子どもたちの描いた将来の藤沢

藤沢の将来を考える上で、将来を生きる子ども達の考えを知ることは大切です。そこで、将来の藤沢はどうなってほしいのか、子ども達にイラストを描いてもらいました。藤沢の今後を担ってゆく彼らの目に、藤沢はどのように映っているのでしょうか？



こういちくん 5さい



さやかさん 14さい



比呂くん 12さい



けんいちくん 5さい



海くん 10さい



拳人くん 12さい



ひなちゃん 5さい



ないとくん 6さい



ひとみちゃん 6さい



ゆあちゃん 6さい



せりちゃん 8さい



小鷹葉月さん



涼くん 10さい

藤沢は私にとって安心できるふるさとです。国道沿いで交通の便には苦勞せず、近くには山や川があって自然に恵まれたまち藤沢に住んでいると、気分が楽になります。藤沢の人たちは行事があると、皆が楽しく行事を終えることができるように協力しあいます。おそらくどの地域よりも住民の結束力は強いと私は感じます。ねぶた祭りや夏祭りは皆の笑い声が絶えません。また、藤沢には昔から大切に伝承されてきた獅子舞があり、今、次世代に継承するための課題が山積みになっています。最近私は保存会に所属して囃子を練習していますが、もっと多くの子供たちの手で獅子舞を継承していくことが重要だと思います。そしていつか藤沢の獅子舞が有名になることが私の夢です。

おらんどもやるが 視察に行ってきました!

藤沢地区では毎年、他の地区へ研修旅行にっています。今年も、今後藤沢で行ってゆく活動の足掛かりを得るため、地域おこしの先進的な取り組みを行っている3つの地区を訪れました。

秋田視察 (12/15-16)

15日:大館山田集落会

大館山田集落会とは?

- 平成6年に結成
- 大館市北西にある
- 世帯数206、人口706人
- コンセプトは「達人の集う集落」
- マイタケの栽培事業を行う
- 集落で採れた山菜や農作物の販売



16日:清流の会

清流の会とは?

- 平成18年に結成
- 五城目町馬場目杉沢地域にある
- 杉沢小中学校を地域の拠点として再利用
- 世帯数103、人口278人
- 高齢者が生き生きと暮らせる地域づくり
- 農家レストランを経営



● 視察参加者の声

印象や感想

- 山菜を取ったり育てたり、活気があると感じた
- やれるひとがやれることをやっている
- 高齢者とは思えぬ輝きがあった
- 元気な年寄りが多い

できそうなこと

- 高森山の林道を整備する
- 休耕田でそばを育てる
- マイタケを育てる



五城目町役場で意見交換会



当日はそば打ちの教室が行われていました

新郷村川代地区視察 (3/8)

新郷村川代ものづくり学校

川代ものづくり学校とは?

- 平成24年度に開校
- 新郷村川代地区にある
- 閉校した小学校を利用
- 世帯数188、人口565人
- 体験教室の実施



楽しくものづくり体験! (そば打ち、カゴ作り、草履作り)



師匠の御手前で大興奮



力加減を考えながら慎重に



教室の一角で和気あいあいと



布を一本ずつ編みこんで草履の形に仕上げます



真剣な眼差しでカゴ作り



先生の熱の入った指導



作りたてのそばを試食



食後の意見交流会

● 視察参加者の声

- 商売としてできるほど本格的であり、生半可ではあれほどの取り組みはできない
- カゴ作りの講師を藤沢に招いてまたやりたい
- 子供会でそば打ちをやりたい
- 体験、視察のメニューが豊富で、もっと時間が欲しかった
- 出迎いが素晴らしかった
- リーダーにバイタリティを感じた

(豆知識)
藤沢および平内の「おべだふり」
参考文献『平内町史』各巻



4. 宴会文化の背景

城下町の武士道とは対照的に、庶民の町・平内は浄土真宗などを入れた商人道が盛んだったと思われます。「働いた成果を楽しむ」気風は、藤沢の宴会が多いことに受継がれているのかもしれない。

これがらいく なるど!

今後、藤沢の活動は?

町内会、子供会、消防団のメンバーを中心に集まって、これまでの様々な調査の結果、先進地視察、住民のアイデアを参考に、これから藤沢で取り組んでゆきたい、取り組んでゆけそうな活動を検討し、選んでみました。また、それらの活動をする上での「心構え」も考えてみました。



活動方針 ~活動をする上での心構え~

- ① やれる人達が無理のないことをする
- ② 身近なものを利用して、それをお小遣いに変える
- ③ 多世代の人々が集まり、交流する機会を増やす
- ④ 藤沢にゆかりのある外の人との交流の機会を増やし、つながりを強くする

● 自分たちでやりたい・すぐできそうな取り組み ~1年以内にスタートしたい!~

目標	取り組みの内容 (☆のついた活動は特に力を入れるもの)
農業収入を増やす (農業の後継ぎ確保!?)	☆野菜や山菜などの無人販売所を設置する (国道沿いがいい)
耕作放棄地の活用	☆休耕地・耕作放棄地にそばを栽培し、そば打ちを通じて交流する ○子どもや大人で畑をつくり、夏と秋に収穫祭を行う ☆山菜(行者にんにく、ワラビ等)や舞茸などを栽培して皆で食べる
交流の場・機会をつくる	○子どもやお年寄りの集まる機会を増やす ☆娯楽・交流のため「どっぶ引き」を復活させる ○公民館以外に近所で集まれる場所をつくる
高齢者の健康維持 (地区の人口の維持!?)	○前高森山(神社や湧水がある)の林道を整備する ☆健康教室を実施する
獅子舞の後継者の育成	☆獅子舞の継承に取り組む

● 近い将来やれそう・やりたい取り組み ~3年以内にスタート!??~

- 町内の小中学校で獅子舞披露会を開催する
- インターネットで山菜や農作物を販売する
- カラオケ大会を開催する
- 空家を活用し茶飲み場や駄菓子屋を開く
- 神社を活用し夜祭りを開催する
- 人形坂のお祭りを復活・開催する(藁人形をつくる)

● 今後できれば・・・ ~やれても5年後以降~

- 田んぼを活用する(米作りたい人に分譲、田圃アート、ドロレース等)
- 八幡宮に湧水が出るようにして名物にする
- 奥州街道(人形坂からのアップダウンの道)の整備
- 地区内にお店を出す・温泉をつくる
- 子どもが遊ぶことのできる場所をつくる
- 国道沿いに融雪口をつくる

● 今後に向けて

来年度以降、藤沢では、「自分たちでやりたい、すぐできそう」と評価された活動をスタートさせてゆきます。これらに取り組むことにより、今以上に、住民が生き生きと健康に、和気あいあいと楽しく、お互いに繋がりの絶えない、魅力のある集落になることを目指します。

一方、これらの取り組みは、多くの人が課題と感じている「人口・子どもの減少」を直接解決するものではありません。また「新しい雇用」や「農業の後継者」をすぐに生み出すものでもないかもしれません。しかし、藤沢の人々が交流して力を集め、無理のない範囲で身近なものを利用して、ここに記された活動を地道におこなってゆくことで、外の人との交流や繋がりが生まれ、それがもつと大きな課題を解決する力になってゆくのではないのでしょうか。



(豆知識)
藤沢および平内の「おべだふり」
参考文献『平内町史』各巻

5. 本町通り(代官通り)の謎

藤沢に本町通りという大通りがあります。言い伝えによれば、平内で最初のお寺が近くにありました。奥州街道と港を結ぶ交通の便がよく、門前市(いち)などの交易の場があったのではないかと推測できます。



遠方の方もぜひいらしてください

藤沢地区の年間行事予定

- お花見
- 下旬 子供会 清掃奉仕
- 田んぼで多忙
- 花壇づくり
- パークゴルフ大会（夜越山）
- 下旬~ 子供会 扇ねぶた作り
- 町内会全員参加の草刈り
- 13日 子供会 子どもねぶた運行
- 14日午前 獅子舞の門付け
- 14日午後 八幡宮夏祭り
- 町内会役員 視察研修
- 下旬~10月上旬 ... 八幡神社新嘗祭
- 町内会総会
- 新年を語る会
- 下旬~2月上旬 コミュニティセンターの雪下ろし

●編集後記

このたびはパンフレットを手にとっていただき有難うございます。ひと通りの作業を終え、印刷原稿を眺めながら思うのは、藤沢地区の方々の力強さです。パンフレットに使われている大半の言葉は、藤沢の人たちの語った声です。そこには生き様があります。私の感覚にとってそれは端的に「カッコいい」ものとして映ります。タイトルになっている「いんでねえが ふんちゃ」の「いんでねえが」にはそういう「カッコいい」という含みもあります。「カッコいい」ものは受け継がれていって欲しいと、私は思います。(田中和樹)

いんでねえが ふんちゃ

～青森県平内町藤沢地区 明日を考えるための八ヶ月間の軌跡～

[発行日] 平成27年3月27日

[発行] 藤沢町内会、青森県企画政策部地域活力振興課

弘前大学 大学院地域社会研究科 藤沢プロジェクトチーム

(佐々木純一郎、土井良浩、葛西一美、佐々木邦和、田中和樹、翟滄、ファン・ティ・ヒュウ、村上早紀子)

SPECIAL THANKS TO 長尾一人、松橋広幸

[編集] 土井良浩、田中和樹

[デザイン] デザイン工房SPACE

[印刷] 青森コロニー印刷

●お問い合わせ

平内町役場 企画政策課 TEL:017-755-2111 (232)

弘前大学 学務部教務課 TEL:0172-39-3960